

バイオサイエンス事業

ニチレイバイオサイエンス
https://www.nichirei.co.jp/bio

株式会社ニチレイ 上席執行役員
株式会社ニチレイバイオサイエンス 代表取締役社長
横井 英夫



バイオサイエンス事業の変遷

バイオサイエンス事業は、1980年代に新規事業を創出する取り組みの一環で始まりました。細胞培養で使用する牛胎児血清の輸入・販売のほか、化粧品原料となるプラセンタエキスの製造・販売により事業を拡大しました。

1990年代からは、培地^{*1}の輸入・販売を手がけるバイオ医薬品原料事業をはじめ、アセロラのパウダーなどを販売する機能性素材事業^{*2}のほか、抗体を活用した診断薬の開発・製造・販売を手がける分子診断薬事業と迅速診断薬事業（現在はイムノクロマト事業）を展開してきました。

2006年には分子診断薬事業で自動染色装置の販売を開始、2019年には新たな研究開発・生産拠点としてグローバルイノベーションセンター設置、また米国の自動染色装置メーカー Pathcom Systems Corporation 社（以下、Pathcom 社）を買収するなど、技術力を活かした高品質な製品・サービスをグローバルに提供しています。

中期経営計画

「Compass Rose 2024」の進捗

中期経営計画の初年度である2022年度は、国内において新型コロナウイルスに対する医療体制の整備が進む一方で、依然として同ウイルスの感染拡大が継続し、売上高・営業利益はイムノクロマト事業が牽引する形で、2021年度を大きく上回る結果となりました。

イムノクロマト事業では、これまでの季節性の感染症とは異なり、感染者数の予測が難しく、繰り返し発

生する新型コロナウイルス感染症の大きな流行に対し、短期間に抗原検査キットを供給する体制が必要でした。2021年度までは当社の供給体制が追いつかず苦戦しましたが、自社生産の抗原検査キットだけでなく中国の診断薬メーカーと連携し、供給体制を再構築しました。これにより感染者数が大きく増加した2022年度は検査需要に適切に対応できたことがビジネスチャンスにつながりました。今後はさらなる連携強化により、抗原検査キットのリードタイム短縮を図るとともに新規販売先との提携も進めていきます。また、新型コロナウイルス抗原検査キットのOTC（一般医薬品）化を新たな機会と捉え、薬事対応や販売ルートの整備といった対応を進めるとともに、市場環境の変化に柔軟に対応できる組織体制を強化していきます。さらに、複数の感染症の同時検査や検体採取方法の低侵襲化といった市場ニーズを反映した製品開発も進めています。

当社の成長領域と位置づけている分子診断薬事業について、2022年度は、新たな免疫染色抗体試薬の発売やフルオート自動染色装置の販売拡大、海外向け試薬バルク製品の売上拡大といった一定の成果が得られました。これらの成果により2021年度の売上を上回ることができました。引き続き病理検査市場へのフルオート自動染色装置の販売を推進していきます。これにより、装置市場のシェアを維持するとともに、フルオート専用試薬の売上を拡大し、収益性の向上を図ります。また、遺伝子を利用した診断薬として、ベルギーのBiocartis Group NVより導入した遺伝子検査装置の専用診断薬が、大腸がんを対象とするコンパニオン

診断薬^{*3}として薬事承認を取得しましたので、遺伝子検査装置とともにコンパニオン診断薬の販売を進めていきます。海外事業については、米国での薬事・品質システム規制への対応を進め、試薬販売開始に向けた準備を整えるとともに、海外向けバルク製品の安定供給体制を構築していきます。また、米国子会社のPathcom社においては、部材調達コスト上昇のためフルオート自動染色装置の販売価格を改定し、収益性の改善を図っていきます。

バイオ医薬品原料事業では、2022年度は前年度並みの売上高・営業利益となりました。2023年度は、購入予約に基づいた血清在庫の早期販売および新規の購入量をコントロールすることにより在庫量の最適化を進め、資本効率の向上を目指していきます。また、バイオ医薬品や再生医療等製品、ワクチンの開発・製造における血清や培地の市場成長を背景とした新規ビジネスの取引拡大を進めていきます。

当社は、ニチレイグループのほかの事業と比べ、売上高総利益率が高い収益構造となっている点が特徴です。しかし、過去3年間は研究開発・生産拠点を新設したタイミングと新型コロナウイルスの影響による業績悪化が重なり、営業利益率が大きく低下しました。2022年度は業績が回復したことにより以前の収益構造に戻つつありますが、今後も使用資本の削減や競争優位性のある事業モデルへの転換を進め、引き続きバイオサイエンス事業全体の収益力を強化していきます。

マテリアリティ1 食と健康における新たな価値の創造

遺伝子検査装置の専用診断薬が、大腸がんを対象とするコンパニオン診断薬として薬事承認を取得

ニチレイバイオサイエンスでは、当社提携先であるBiocartis Group NVが開発した遺伝子検査装置の専用診断薬の日本での普及を図っており、2022年および2023年に、専用診断薬を用いた体外診断用医薬品2品目について、それぞれ大腸がんの治療に用いる分子標的薬のコンパニオン診断薬として製造販売承認を取得しました。これは、従来外注することが多かったがんの遺伝子検査を患者さんが受診する医療機関内で完結させることを可能とする画期的なものです。検査結果が得られるまでの時間(Turn Around Time)を短縮することにより、がん診療に新たな価値を提供していきます。



グループ重要事項(マテリアリティ)の進捗

当社は「新しい価値によって健康を支え続ける」ことをビジョンに掲げており、「食と健康における新たな価値の創造」に注力しています。高齢化に伴って増加するがん患者の病理診断のニーズ、インフルエンザウイルス、新型コロナウイルスといった感染症の迅速診断のニーズは今後も増加すると予想されます。そのような社会課題の解決に直結する当社の事業価値は高いと考えており、引き続き、技術に基づいた高品質な製品・サービスによる独自の付加価値の提供に努めていきます。

また、2022年度はグローバルサステナビリティプラットフォームエコパデイスによる評価において、2年連続で「シルバー評価^{*4}」をいただきました。2023年度はさらに取り組みを強化します。

多様な人財の活躍においては、当社は一般社員の約半数が女性であり、女性役職者比率は20%を超えています。女性が活躍しやすい環境を整備することで、この水準をさらに高めていきます。



^{*1} 微生物の培養に使用する液体または固体の物質のことで、培養基ともいう。
^{*2} 機能性素材事業は2021年6月にニチレイフーズへ事業譲渡。
^{*3} バイオマーカーや遺伝子などを検査して、患者に適切な医薬品や治療法を選択することを可能にする体外診断用医薬品。特定の医薬品の有効性や安全性の向上を目的に使用され、がんの分子標的治療薬の投与判断などに使用されている。
^{*4} サステナビリティ・サプライチェーン評価の世界的権威機関であるエコパデイスは、「環境」「労働慣行と人権」「倫理」「持続可能な資材調達」の4つの観点で、世界175カ国、200業種、10万以上の団体・企業を評価しており、「シルバー」は総合評価で上位25%以上の企業に与えられる。